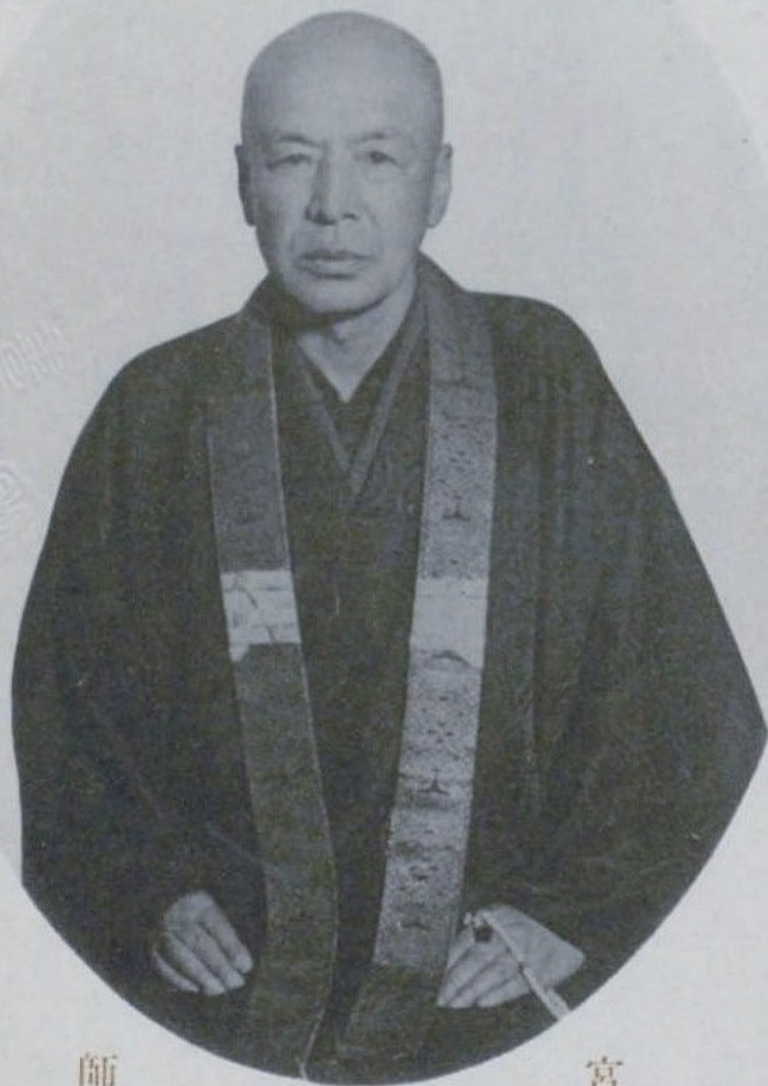


宮部圓成師說

御文法話

願成就文說教

大家名說集第一



師 宮

成 圓 部

略 傳

宮部圓成師は一派布教界の耆宿、明治大正より昭和の現代まで、東西に法輪を轉じ、一日も席の温まるに違はない。而して師が夙に渡歐して、英都龍動の街路を念佛高唱しつ、徘徊し、兒童に金米糖を興へて稱名せしめたさいふやうなことは、今では知らない人が多いであらう。左にその略歴を記さば、

△安政元年寅四月九日江州東淺井郡虎姫村字宮部法信寺に生る。△元治元年より漢文國學和蘭學を小桐宗伯に學ぶ。△慶應二年四月より俱舍論を蓮元慈廣師に學び、明治二年三月より京都智積院に唯識を學ぶ。△明治七年四月大阪師範學校創立せられ、江州大津にも傳習所を設けらるゝや、入學三ヶ月にして甲種卒業。明治九年四月長濱に大谷派小學校の設けられし時、選ばれて教授方を命ぜらる。△明治十年四月より備中國江原興讓館に於て七ヶ年漢文を專修し、同十六年三月興讓館經書課歴史課詩文課全課卒業す。△明治十七年四月、高倉大學寮に入學し、同十九年七月十九日専門部卒業。爾來毎歲高倉大學寮安居聽講し、香山院、雲樹院、細川千巖、楠潛龍、竹田行忠、蓮井雲溪、福田義導、松室觀靈、雲英晃曜、調雲集、占部觀順諸師の講義を親聞せり。

△明治二十一年四月より一ヶ年間に亘り、歐米諸國を漫遊して、各地の宗教事情を取調べたり。△明治三十六年二月特選賛業に列せられ、教學商議員を命ぜらる。△大正十一年十一月、總會所布教係を命ぜらる。而して師は現に愛知縣渥美郡牟呂吉田村神野新田圓龍寺の住職として、老來いよく健康一日でも説教せれば心地が悪くてならぬと、相變らず各地に布教してゐられる。(編者記)

# 成就文説教 目次

## 讀題

諸有衆生聞其名號……………五三

第一席 眞俗二諦の本源……………五三

眞宗の根本は願成就の文——總依と別依——第十八願は願成就で知れる——眞諦門の肝要——稻川と鐵が嶽——俗諦門と此頃の人々

第二席 誰でも來い……………六六

諸有衆生とは誰のこころか——誰も彼れも残らずと云ふこころ——極樂へ行く船のたよりに——分け隔てのない本願——凡夫の爲の本願——好きなが嫌ふ——抑止は釋迦の方便

第三席 名號と本願……………六六

其こは何を指すか——佛願の生起——佛願の本末——稱ふるものをこの仰は自力息いか——稱へるこたのむ——火をにぎれば誰でもあついで——つくるより貰ふはやすし初茹——たのむと助け給へ

第四席 聞、信、喜……………九四

聞其名號ミ聞佛願生起本末ミの關係——本願ミ名號ミは同じもの——願成就ミ  
六字——願成就の概要——願成就の至極——一念多念證文の御釋に就いて——  
三部經の要旨——聞の字の二釋——藥賣りの喩

第五席 觀稱の優劣……………一〇四

疑はぬミ疑へぬミの區別——聞ミ信——禪宗の和尚ミ眞宗の老婆ミの問答——  
生起本末に就いて——香月院の説——圓乘院の説

第六席 行體と行相……………一二八

行體ミ行相——乃至十念の受心——たのむものを助くる——盡日春を尋ねて春  
を見ず

第七席 六字の三相……………一二六

正因門ミ正行門——谷のこだまは峯のよび聲——釋迦彌陀二尊の仰せに従へ——  
六字の三相——たのむミ願ふ——信じたゞけではまだ足らぬ——？鏡の蓋を  
これば姿がうつる

第八席 如來と我……………一三九

六字六字の義——如來は爲物身——方便法身とは——二字四字不離の義——機  
法一體の源は西山——御文に安心決定鈔との相違——西山は生佛一體——こ  
な紛らはしい名目をなぜ使ふ